

実践のまとめ（第6学年 道徳科）

新発田市立猿橋小学校 教諭 加藤 聡史

1 研究テーマ

テーマ発問によって促す児童の多面的・多角的思考 ～シンキングツールを活用した対話を通して～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

道徳科では、児童の道徳性を養うために物事を多面的・多角的に考える学習が求められている。永田（2017）の提唱するテーマ発問は、主題を掘り下げて児童の思考を深める発問として有効であると言われている。しかし、「何がどうなれば多面的・多角的思考なのか」という規準が明確に示されていない⁽¹⁾。また、『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』にも、「何がどうなれば多面的・多角的思考なのか」という規準は、明記されていない。この規準がなければ、児童は授業前後での思考の変容に気付きにくいと考える。テーマ発問に関する研究は、国立情報学研究所が運営するデータベース CiNii でも、5本の論文にとどまっている。

授業者は、「道徳的価値に関する一つの言葉」を規準としたテーマ発問を用いて授業を構成する研究を継続してきた。「道徳的価値に関する一つの言葉」とは、『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』で示されている内容項目の概要、指導の要点をはじめ、教材や児童の実態を鑑みて設定する言葉である。「B 友情、信頼」ならば「友達」、「D 感動、畏敬の念」ならば「感動」などが考えられる。これまでの研究から、「仮定」をする多面的思考を促すことで80%以上の児童に多角的思考も促すことができる等、一定の成果を挙げることができた⁽²⁾。

一方、授業者と児童のやりとりによって授業が進み、児童同士の対話の量や質を十分に確保できていないことに課題を感じていた。児童の振り返りの記述には、仲間の考えを取り入れたものが少ない。対話を通して、自分や仲間の考えのよさに気付く、更に多面的・多角的思考をするためにも、シンキングツールを活用した対話場面を設ける。シンキングツールによって考えが可視化され、共有や比較が容易になるなど、対話を深める効果が期待できる。

本研究では、「道徳的価値に関する一つの言葉」を用いたテーマ発問を行いつつ、児童がシンキングツールを活用して対話をする中で、多面的・多角的思考を引き出せるかを検証する。

(2) 研究テーマに迫るために

① テーマ発問について

「道徳的価値に関する一つの言葉」を用いた3つのテーマ発問（A・B・C）を行う。浅見（2018）は、「子どもたちがよりよい生き方をしていくためには、一つの事象に対して様々な見方で考えることができ、選択肢を多く持つこと、そして、その複数の選択肢の中から適切に判断していくことが重要である。」と述べている⁽³⁾。このことから、本研究では、3つのテーマ発問をA、B、Cの順で行うこととする。具体的には、表1に示す。

表1 本研究におけるテーマ発問の分類及びテーマ発問例

テーマ 発問	概要	「道徳的価値に関する一つの 言葉」が「 <u>素直</u> 」の場合
A	道徳的価値に対するイメージを確認する発問。道徳的価値に対するイメージを学級全体で共有することで、道徳的価値に対して様々なイメージがあることに気付かせる。	「 <u>素直</u> 」とは何か。

B	道徳的価値を様々な立場から分析させ、多面的思考を促す発問。テーマ発問A以外に、違う視点から考えることを促したり、揺さぶったりすることで、道徳的価値に対するイメージを広げさせる。	主人公の「 <u>素直</u> 」は、みんなが納得できるものなのか。
C	道徳的価値を基にして、「自分だったら」と選択させ、多角的思考を促す発問。テーマ発問A・Bを踏まえ、自己決定させる。その理由を交流させることによって、道徳的価値に対するイメージを深めさせる。	なぜ「 <u>素直</u> 」は大切だと言えるのか。

② 対話について

児童一人一人に自分の考えをもたせた上で、グループ対話に臨むようにさせる。シンキングツールの活用は、手段であり、目的ではない。「考えを伝えて終わり」とさせないために、対話の目的や方法を明確にし、グループ及び全体での対話の時間を確保する。また、考えの変容に気付くやすくさせるため、特に「誰のどんな言葉によって、自分の考えが変容したのか」を振り返りに記述させる。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ① 対象児の授業の様子や振り返りの記述から、テーマ発問の有効性を検証する。
- ② テーマ発問及びシンキングツールを活用した対話によって多面的思考及び多角的思考に至ったかどうかを、対象学級の児童全員の振り返りの記述から見取る。具体的には、表2の記述が見られたかを規準とする。

表2 本研究における多面的思考及び多角的思考の判断根拠となる記述

多面的思考をしたと分かる記述	多角的思考をしたと分かる記述
<u>道徳的価値を外側から見つめている。</u> ・ こういう場合もあると考えている。 ・ 他の人の見方を推測している。 ・ 新たな側面を見いだそうとしている。 など	<u>道徳的価値について自分を起点としている。</u> ・ 自分だったらどうかと考えている。 ・ これからの自分を展望している。 ・ 自己を見つめ直し、内省している。 など

検証の精度を向上させるため、テキストマイニング⁽⁴⁾による解析も併せて行う。テキストマイニングにより、児童の振り返りの記述の傾向や相関関係を把握する。

3 指導計画

(1) 主題名

働くことのよさとは (C-14 勤労、公共の精神)

(2) 教材名

「マザー・テレサ」 (みんなの道徳6 Gakken)

(3) 主題設定の理由

① ねらいとする道徳的価値

生きていくには、自分の仕事に誇りと喜びを見いだし、生きがいをもって仕事を行えるようにすることが大切である。第5学年及び第6学年では、勤労が自分のためだけでなく社会生活を支えるものであることを考えさせ、公共のために役に立とうとする態度を育てることが望まれる⁽⁵⁾。目の前の相手のためだけでなく、目に見えない周りの人々、未来の人々への影響についても想像させることで、働くことのよさに気付かせ、「どんなことでも、自分から働こう、誰かの役に立とう」という思いをもたせたい。

② 教材と児童

指示されたことに対して素直に取り組む児童たちであるが、何事にも自ら取り組もうとする児童は少ない。これまでの学びや生活経験において、働くことのよさや大切さはある程度理解しているが、進んで働いたり奉仕したりすることができない児童もいる。

本教材のよさは、「自分にできることがないか」と常に考え、行動に移すテレサの姿勢

である。自分の夢を叶えて満足せず、貧しい家庭の子どもたちや路上で倒れている人たちなど、多くの人のために自分ができることを考え、行動に移すテレサの素晴らしさに気付かせたい。言われたから働く「他律」ではなく、やらなければならないと思って働く「自律」、やりたいと思えるように工夫して働く「自立」へと児童の思考を深めさせたい。

本時では、「テレサにとって働くとは何か」と問う。相手のためを思った行動を増やしたり、対象を広げたりすることや、相手の喜びを自分の喜びとして捉えることの大切さに気付かせ、「働く」に対する多面的・多角的思考を促したい。

なお、児童が対話に必要感をもち、考えの変容に気付かせるために、クラゲチャートを用いる⁽⁶⁾。児童は、これまでにピラミッドチャートや座標軸などのシンキングツールを用いて思考する学習に取り組んできている。本時では、「テレサにとって働くとは何か」というテーマに対してクラゲチャートを用いることで、テレサの思いを様々な視点から想像させることができると考える。また、自分が最も納得いく考えを見つけるよう促すためにも、グループ対話及び全体対話の2つの場面でクラゲチャートを用いることにする。

(4) 他の教科、領域との関連について

	教科・領域	道徳科	教育活動
1 学期	国語「楽しみは」 社会「ともに生きる暮らしと政治」 「わたしたちの暮らしを支える政治」 「日本の歴史」	「チョモランマ清掃登山隊」 D-20 自然愛護 「温かい行為が生まれる時」 B-7 親切、思いやり	入学式（4月）
			委員会活動（通年）
			きらきら班活動（5月～10月）
			運動会（5月）
			プール清掃（6月）
2 学期	国語「やまなし」 社会「日本の歴史」 音楽「詩と音楽との関わりを味わおう」	「光をともした魔法の薬」 A-6 真理の探究 「マザー・テレサ」 C-14 勤労、公共の精神 「青の洞門」 D-22 よりよく生きる喜び	クラブ活動（6～10月）
			委員会活動（通年）
			きらきら班活動（後期）
			きらきらカーニバル
3 学期	国語「今、私は、ぼくは」 社会「世界の中の日本」 家庭「あなたは家庭や地域の宝物」 総合「卒業プロジェクト」	「前を向いて」 C-16 よりよい学校生活、集団生活の充実 「こだわりのイナバウアー」 B-8 感謝	委員会活動（通年）
			きらきら班活動（後期）
			6年生を送る会（2月）
			卒業式（3月）

(5) 本時のねらい

マザー・テレサにとって働くとは何かについて話し合うことを通して、「自分にできることはないか」と考え、行動する大切さに気付き、実践しようとする態度を育てる。

(6) 本時の展開（令和6年10月9日実施）

	□学習活動	○主な発問・予想される児童の反応	◇留意点
導 入	□「働く」とは何かを考える。	○「働く」とは何か。 ・相手の役に立つこと。 ・自分が生活するためにすること。	◇教材は、事前に読ませておく。
	□自分とテレサの違いを考える。	○自分とテレサの「働くレベル」に点数を付けてみよう。 ・自分は70点で、テレサは100点。テレサみたいに「相手のため」を思って働くことができていないから。 課題 「働くレベル」を上げるには？	◇自由に発言させ、板書でまとめる。 ◇ノートに点数とその理由を記述させる。 ◇点数は発表させないが、自分とテレサの違いを発言させる。

展 開	☐ テレサにとっての「働く」とは何かを考える。 ☐ 各班のクラゲチャートを全体で共有する。 ☐ 働く上で大切なことを考える。	○ テレサにとっての「働く」って何かな。 ・ 常に「誰かのために」と考えること。 ・ 今の自分に満足しないこと。 ○ 働く上で大切なことって何かな。 ・ 目標をもち続けること。 ・ 「やりたい」と思えるように、自分から工夫すること。	◇ テレサの功績を板書でまとめる。 ◇ テレサの発言の意図を想像させる。 ◇ 各班でクラゲチャートをまとめさせる。 ◇ 全体で共有し、対話させる。
終 末	☐ 「働く」に対する考えの変容を振り返りに表す。	○ 「働くレベル」を上げるためにどうするかを振り返りに書こう。 ・ ○○さんの「今の自分に満足しないこと」に共感しました。働くのは相手のためだけだと思っていたけれど、自分もみんなも笑顔にしていきたいです。	◇ 参考になる考えを発表した仲間の名前を入れて振り返りを記述させる。

(7) 本時の評価

① 評価の視点

- ・ 「働く」に対する授業前後の考えの変容を振り返りに表している。

② 評価の方法

- ・ 対象児の授業の様子を録画し、テーマ発問に対する反応を検証する。
- ・ 対象学級の児童全員の振り返りの記述から、多面的・多角的思考をしたと思われるものを見取る。テキストマイニングによる解析も行い、客観的データも踏まえる。

4 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① テーマ発問A（「働く」に対するイメージを確認する発問）

「働くとは何か」と問うた。すると、「他の人のため」や「自分のため」という対象を意識したものや、「一生懸命やらなければならない」や「仲間との協力が必要」という行動的なもの、「楽しくないもの」や「大変」という心情的なものなどが出された。A児は「目的のため」という仲間の発言に反応し、「一生懸命がんばること」と発言していた。この時点では、「目的を達成するため」というイメージが強い様子がうかがえた。

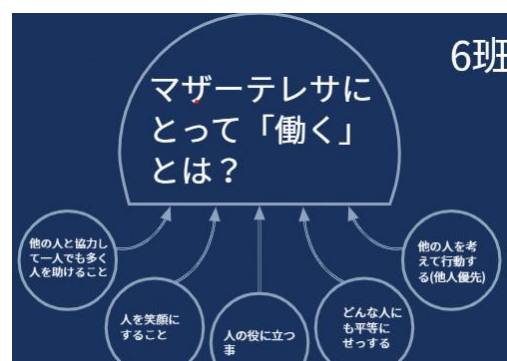
② テーマ発問B（「働く」に対する多面的思考を促す発問）

『マザー・テレサ』を事前に読ませておいたため、読み聞かせをせずに感想を発表させた。「晩餐会の費用を他の人にあげるところがすごい」「いろいろな人の役に立とうとしてすごい」などの感想が出される中で、A児は「テレサは、みんな同じように接していてすごい」と捉えていた。資料1のように、ノーベル平和賞を受賞するまでに、様々な人のために活動したテレサの功績を板書にまとめる中で、テレサの葬儀に参列した数十万人は、テレサが直接関わった人だけでなく、その家族や友達などにも広がっていたことを全体で確認した。



資料1 本時の板書（一部）

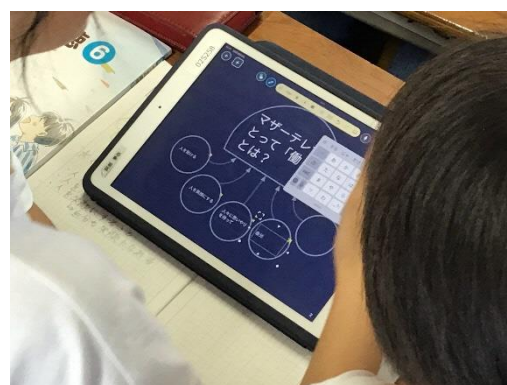
その上で「マザー・テレサにとって働くとは何か」と問うた。道徳ノートに記述するよう促したところ、A児は、「人のためになること（役立つこと）」のみ記述していた。次に、班内でクラゲチャートにまとめさせたところ、A児は「テレサは一人でやったわけではないよね」と発話した。そこで、「協力」という言葉を見いだしたり、仲間が発した「平等」という言葉に共感したりしながら新たな考えを得て、班としての考えをまとめていた。（資料2）



資料2 A児の班のクラゲチャート

③ テーマ発問C（「働く」に対する多角的思考を促す発問）

ロイロノートの提出箱に各班のクラゲチャートを提出させた後、共有機能を使い、他の班のクラゲチャートも見ることができる状態にした。その上で、「他の班の考えを見て、働く上でいいなと思うものはどれか」と問うた。すると、「誰に対しても平等」「あきらめずにできる限りのことをする」「みんなのためにやっていたことで未来が変わる」などが出された。A児は、「自分以外の人に人生を捧げる」を選択した。その理由を問い返したところ、「自分のためより他の人を優先させることがいいと思うから」と答えた。そこで、「自分より他人を優先することは本当によいことなのか」と揺さぶりをかけた。A児も含め、学級全体の児童に迷いが生じた様子うかがえたため、2班の「使命」という考えに着目させた。そこで、「（7班の）自分のできる限り」の前段階として、「自分にできることは何かを考えること」が使命感をもって働くことであり、その結果が他人を優先させる行動となったことに気付かせることができた。



(2) 研究テーマに関わる評価

A児の振り返りの記述は、資料2のとおりである。

働くレベルを上げるには、今の自分にできることをやることが大切だと思った。Yさんが未来のためと言っていて、いいなと思った。今のことを考えて行動することも大切だけど、未来のことを考えて行動することの方が大切だと思った。これから人のためにどう行動するかを考えて行動したい。

資料3 A児の振り返りより（下線は多面的思考、網掛は多角的思考と分かる記述）

このように、「働くとは、一生懸命がんばることだ」と捉えていたA児は、表3のように、思考を変容させていた。テーマ発問Bにより、協力や平等といった「人との関わり」に関する視点を得ていた。また、テーマ発問Cにより、「人との関わり」も踏まえ、「自分だったら何を大切にしたいか」と自己決定し、表3「働く」に対するA児の思考の変容していた。テーマ発問Bでのグループ対話によって、多面的思考をしていた様子うかがえたが、振り返りでは、テーマ発問AでY児が発言し、2班のクラゲチャートにもあった「未来」という言葉に最も共感していた。テーマ発問Cで、「他の人のために」を選択していたが、「使命」という言葉から、「今の自分にできることをやる」や「未来のことを考えて行動

テーマ発問	A児の思考
A	一生懸命がんばることだ
B	協力や平等も働く上で大切だ
C	相手のために自分にできることは何かを考えて行動するのが大切だ

表3 「働く」に対するA児の思考の変容

する」という多角的思考に至ったと推察する。学級全体では、32名中29名（約91％）が「働く」に対して多面的思考をし、27名（約84％）が多角的思考、25名（約78％）が多面的思考かつ多角的思考をしたことが分かる記述であった。具体的には、表4のとおりである。

表4 本時における多面的思考及び多角的思考をしたことが分かる記述

多面的思考をしたと分かる記述（一部抜粋）	多角的思考をしたと分かる記述（一部抜粋）
・一人一人の子どもの未来を支えている。 ・人の幸せのためにする。 ・誰かのためは、簡単そうで難しい。 ・自分ができることを頑張ることは、誰かのためにつながる。	・楽しくないことでも全力で取り組みたい。 ・たくさんの人の未来を明るくしたい。 ・みんなのために心を広くしていきたい。 ・勉強で困っている人を助けるなど、小さなことからやりたい。

このように、働くことは自分のためだけでなく、相手の笑顔や、様々な人の未来に繋がっていることに気付くなど、児童一人一人が「働く」に対するイメージを深めていた。

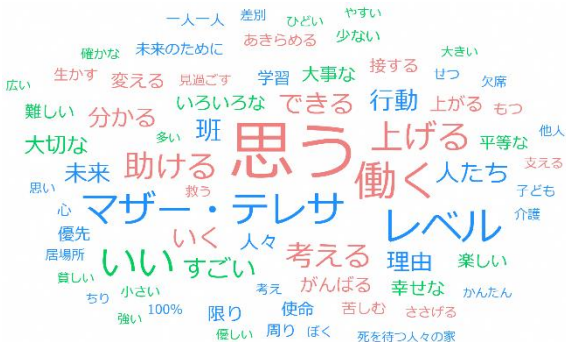


図1 振り返りの記述のワードクラウド

図1は、テキストマイニングで示されたワードクラウドである。「働く」が、「思う」に次ぐ言葉として出現した。「働く」と共起回数が多く見られた言葉のうち、授業者が用いた（レベル、上げる、考える）以外の言葉では、「できる（7回）」「助ける（6回）」「楽しい（4回）」という順となった。テーマ発問Aでの児童の反応にはなかった言葉であり、テーマ発問B・Cによって「働く」について多様な感じ方や考え方を促すことができたと考える。

(3) 今後の課題

正しいと分かっているが、なかなか実現することができないという「人間の弱さ」は誰にでもある。本時でテーマ発問Aを行った際に、児童から「働くとは、楽しくないもの」や「大変なもの」というイメージが挙がった。そのイメージとテレサの生き方を対比させていれば、「テレサは、なぜそのような生き方ができたのか」「テレサにも、私たちがもつ弱さのようなものはなかったのか」という思考につながったと考える。教材文の感想で児童が口々に発した「すごい」という言葉のとおり、マザー・テレサは、児童にとっては遠い存在と受け止められがちである。やりたくないことでもやりたいと思えるように工夫することや、相手の喜びを自分の喜びとして受け止めることなど、「働く」に対するイメージを更に深めさせるためにも、児童と教材の登場人物との距離感を押し量り、意図的な共有と比較を促すようなテーマ発問を考えていきたい。

本実践では、クラゲチャートを用いたが、教材や児童の実態に応じたシンキングツールの活用が肝要である。その都度、適切なシンキングツールを活用し、児童の対話の量や質を確保しながら、児童の多面的・多角的思考を更に促していきたい。

<参考文献>

(1) 永田繁雄、『これからの道徳教育で特に求められることー道徳教育の改善と充実ー』. 2017. p. 5.
(2) 加藤聡史、『テーマ発問によって促す児童の多面的・多角的思考』. 2020. p. 76-83.
(3) 浅見哲也、『多面的・多角的に考える道徳科の授業とは』. 明治図書. 2018. 725, p. 68-70.
(4) 株式会社ユーザーローカル、『AI テキストマイニングツール』. 2020.
<https://textmining.userlocal.jp/>
(5) 文部科学省、『学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』. 東洋館出版社. 2017. p. 54-55.
(6) 株式会社 LoiLo. 『ロイロノート・スクール』. 2020. <https://n.loilo.tv/ja/>
(7) Gakken 『みんなの道徳6』. 株式会社 Gakken. 2024. p. 28-33.